

自殺未遂者支援体制の構築に向けて

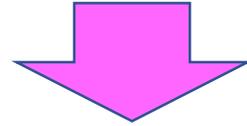
～救急告示病院への実態調査と自殺未遂者支援研修会をとおして～

高鍋保健所 疾病対策担当 稲留和磨

はじめに

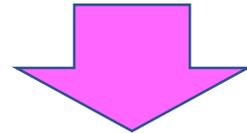
平成21年

「自殺ゼロ」プロジェクト推進事業 開始

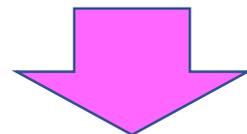


同年

西都児湯地域自殺対策推進協議会 設置



管内では自殺未遂者への体制整備が
十分に整っていない。



自殺未遂者を地域の相談機関へ繋ぐための体制が必要

目的

- ① 管内救急告示病院に搬送される自殺未遂者への支援と現状を明らかにする
- ② ①を基に自殺未遂者支援研修会を開催・評価し、今後の管内の自殺未遂者支援のあり方について検討する

1 救急告示病院への自殺未遂者支援に関する実態調査

- (1) 対象：管内救急告示病院 9か所
- (2) 調査期間：
平成28年4月1日から平成29年3月31日
- (3) 調査方法
 - ①実態調査様式作成
 - ②郵送にて様式を配付、回収する
- (4) 回収率：100%

救急告示病院における自殺未遂者への対応に関するアンケート調査

※自殺未遂者支援を目的に西都児湯地域の※自殺未遂者の現状を把握したいと考えております。お忙しいところ大変お手数をおかけしますが、ご協力をよろしくお願いいたします。
 (平成28年4月1日～平成29年3月31日に受診した※自殺未遂者について、お答えください)

※自殺未遂者とは貴病院へ搬送された自殺企図患者で、救命された方

施設名 _____

記入者 職種・氏名 _____

問1 貴院の自殺未遂者受診状況についてお答えください

(1) 自殺未遂者受診数(延べ人数)

*全数を上段に、管内(西都市、高鍋町、新富町、西米良村、木城町、川南町、都農町)人数を下段に再掲で記載してください。

診月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
数													
内者数													

(2) 受診後の状況

①救命後の状況(全数)

- ・救命後、引き続き入院 人
- ・救命後、他の医療機関へ転院 人
- ・受診後、帰宅 人

②関係機関への紹介の有無(複数可)

- ・精神科への紹介
 - ・口頭による受診勧奨 人
 - ・紹介状による紹介 人
 - ・電話での精神科への受診調整 人
- ・相談機関(保健所・保健センター等)への紹介 人
- ・特に関係機関への紹介はしていない 人
- ・その他の対応 _____ 人
- ・不明 人

裏面へ続く⇒

問2 自殺未遂者への精神的ケアについて

貴院の対応内容と主に対応するスタッフの職種について御記入ください。

① 身体面の治療のみでなく、自殺企図再発防止のための精神的ケアをしていますか。

実施の有無	<input type="checkbox"/> している(実施内容: _____)
	<input type="checkbox"/> していない
主な対応職種	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> ケースワーカー <input type="checkbox"/> その他(_____)

② 自殺企図※再発のリスクについて評価していますか。

実施の有無	<input type="checkbox"/> している
	<input type="checkbox"/> している場合、下記の該当項目にレ点をお願いします。【複数回答】
	<input type="checkbox"/> 搬送理由が自殺企図かどうかの確認
	<input type="checkbox"/> 自殺企図への後悔・内省の有無
	<input type="checkbox"/> 希死念慮の確認
	<input type="checkbox"/> その他(_____)
	<input type="checkbox"/> していない
主な対応職種	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> ケースワーカー <input type="checkbox"/> その他(_____)

③ 自殺企図※再発リスクが高い方へのケアをしていますか。

実施の有無	<input type="checkbox"/> している(実施内容: _____)
	<input type="checkbox"/> していない
主な対応職種	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> ケースワーカー <input type="checkbox"/> その他(_____)

※再発リスクが高い方へのケアとは、相談機関の紹介、生活環境調整、ケース会議の開催等

④ 自殺未遂者への対応の困難感について該当項目にレ点をお願いします(複数回答)

困難感の有無	<input type="checkbox"/> あり
	<input type="checkbox"/> なし
具体的内容	<input type="checkbox"/> 治療中も自殺の恐れがあり、安全管理が難しい <input type="checkbox"/> 治療を拒否するので対応が難しい <input type="checkbox"/> 自殺未遂を頻繁に繰り返すことへのスタッフの徒労感 <input type="checkbox"/> どのように対応したら良いかわからない <input type="checkbox"/> 精神症状の評価が難しい <input type="checkbox"/> 再度の自殺リスク評価が難しい <input type="checkbox"/> 人的・時間的余裕がない <input type="checkbox"/> 精神科医療機関と連携にくい <input type="checkbox"/> 相談機関と連携にくい <input type="checkbox"/> 家族の協力が得にくい <input type="checkbox"/> その他 _____

2枚目へ続く⇒

問3 自殺未遂者の精神的ケア体制を充実させるために必要だと思うことについて、該当項目にレ点をお願いします(3つまで回答可)

<input type="checkbox"/> 救急医療機関と精神科医療機関のネットワーク <input type="checkbox"/> 院内における精神的ケアの充実 <input type="checkbox"/> 自傷・自殺企図患者に対応できる精神科医療機関の情報提供 <input type="checkbox"/> 自傷・自殺企図患者に対応できる精神科医療機関の体制整備 <input type="checkbox"/> 自傷・自殺企図患者支援のための相談援助活動の充実 <input type="checkbox"/> 相談機関同士のネットワークの充実 <input type="checkbox"/> 自殺対策に取り組むNPO等と医療機関の連携強化 <input type="checkbox"/> 自助グループの育成やピアカウンセリングの充実 <input type="checkbox"/> 市民の自殺に対する意識向上のための普及啓発 <input type="checkbox"/> 行政機関の自殺対策の充実(具体的に御記入ください)
<input type="checkbox"/> その他(具体的に御記入ください)

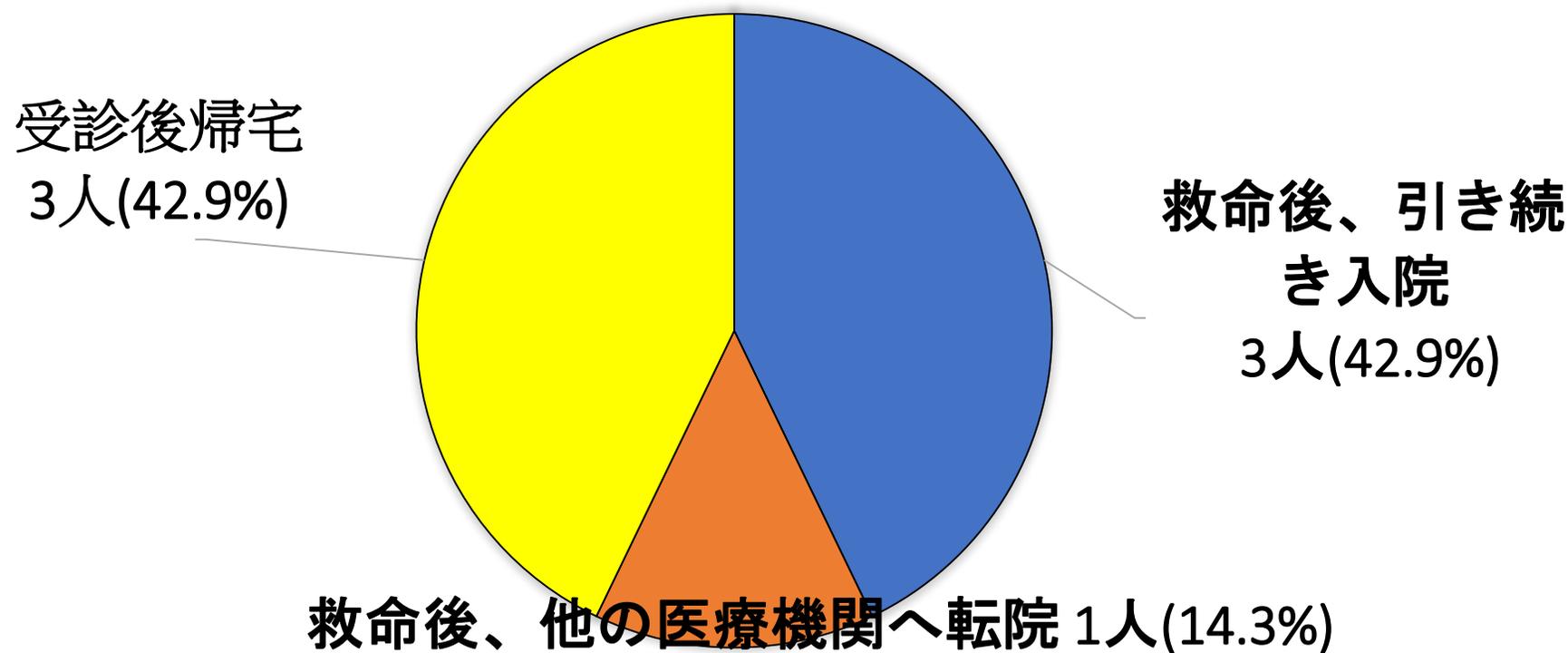
問4 ご意見等ございましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

※ 今回のアンケート結果は自殺未遂者支援研修会にて活用させていただきますが、特定の医療機関が識別されることはありません。

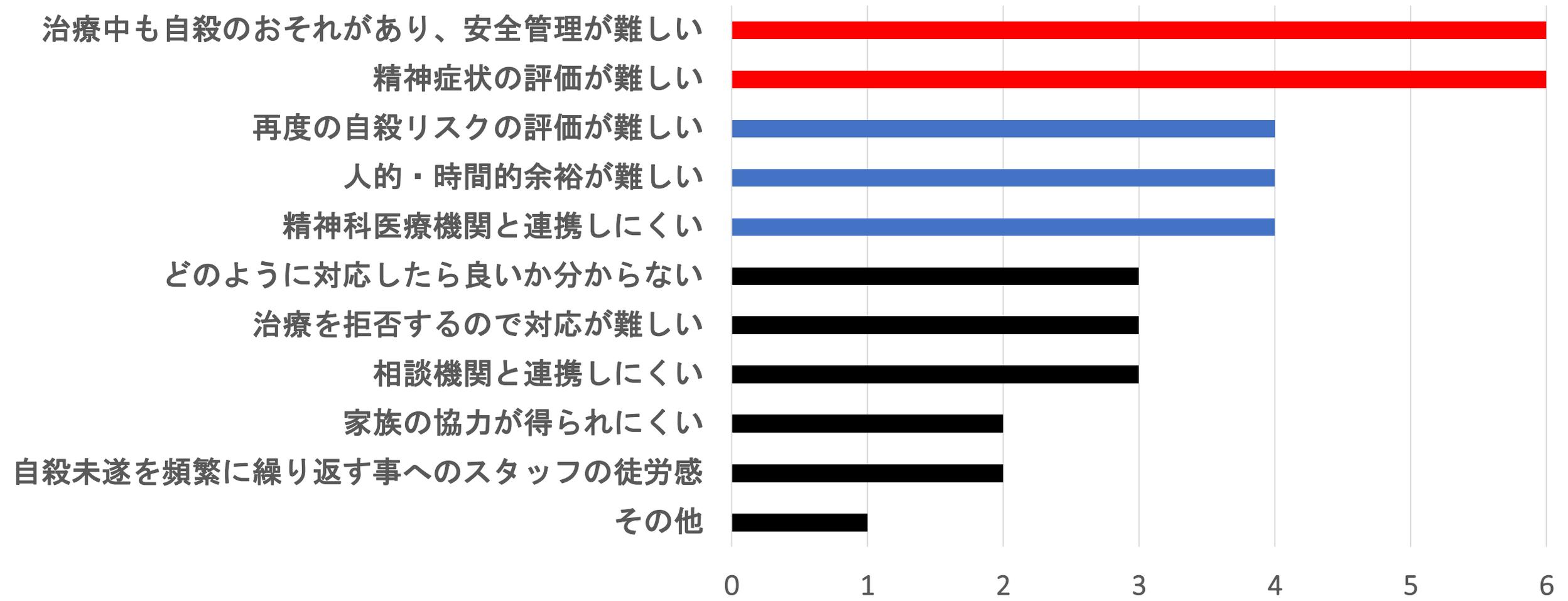
結果1-1 救急告示病院における自殺未遂者救命後の状況

- 平成28年度救急告示病院への自殺未遂者搬送人数：8人



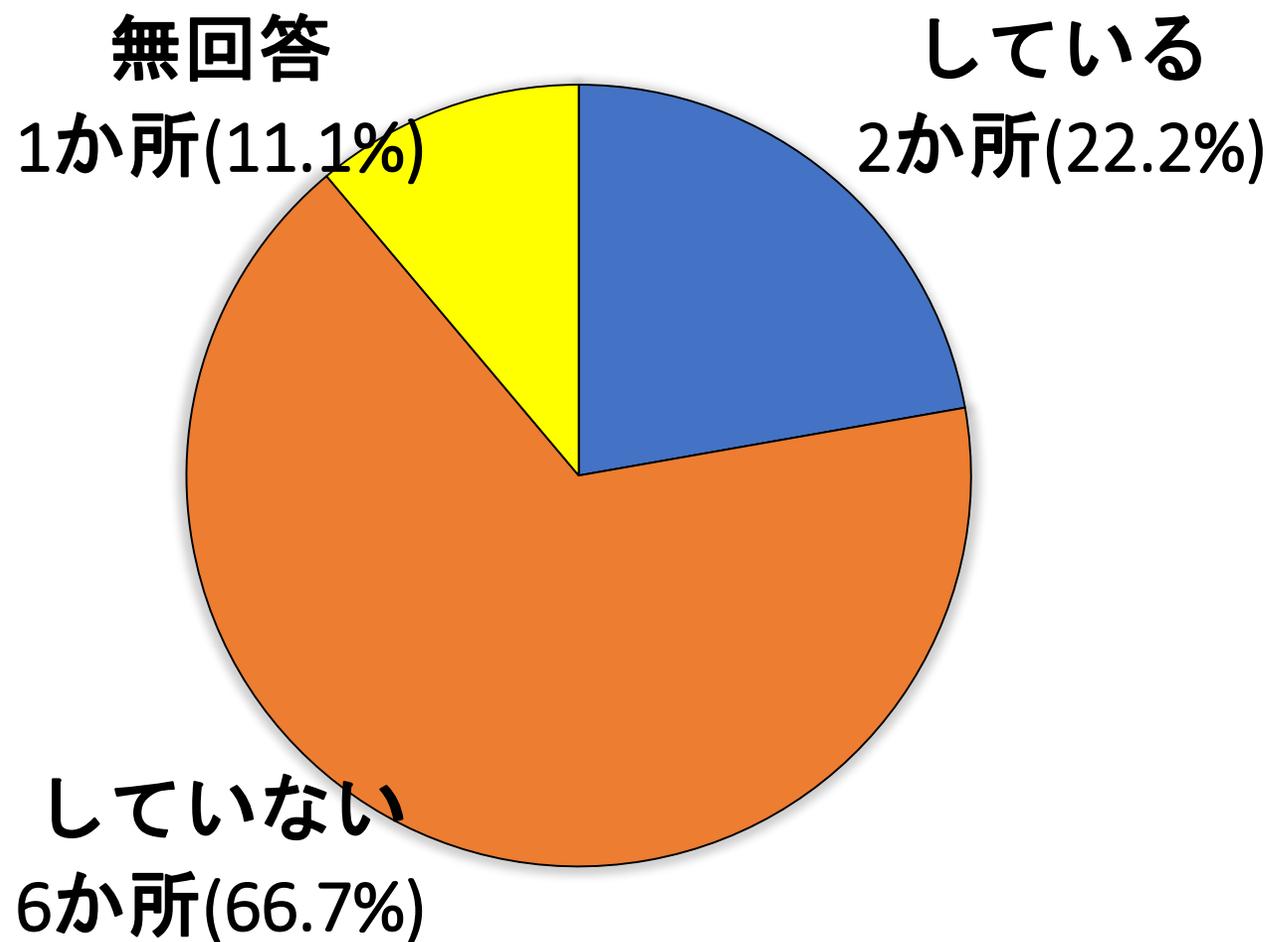
※ n=7人 残り1名は無回答。

結果1-2 自殺未遂者対応時の困難感の有無（複数回答）



n=6か所

結果1-3 自殺の再発リスクについて評価しているか



n=9か所

2 自殺未遂者支援研修会の開催

(1) 対象：管内救急告示医療機関職員 等

(2) 方法：

①実態調査の結果から課題を抽出し、研修会を実施

内容：ア) 説明「管内の自殺の現状について」

イ) 講演「県内における自殺未遂者支援の取組」

ウ) グループワーク

「西都児湯地域における今後の自殺未遂者支援について」

②グループワークにて以下について意見交換を実施

ア) それぞれの機関でできること

イ) 地域全体で未遂者支援を行うための具体的な取組

③研修会実施後にアンケート調査を実施

結果

○参加者：12名

内訳：救急告示医療機関：7名
精神科病院：1名
市町村担当職員：4名

○グループワークでの意見

- ・「西都児湯地域の現状や、自殺未遂者支援についての情報を得るため、また関係機関の意識向上のためにも研修会等への積極的な参加が必要」
- ・「研修会等で得た知識や会議等で話し合った内容をそれぞれの組織に還元していくことが重要」 等

考察 1

管内では半数近くの自殺未遂者が受診日当日に帰宅する



医療機関職員が、関係構築や事後フォローに繋ぐためのアプローチにかけられる時間が短い

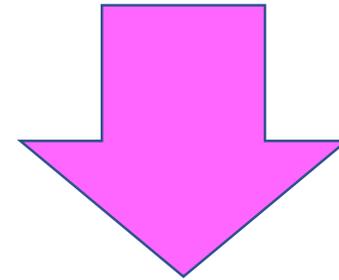


煩雑な業務の中、より短時間で事後フォローに繋ぐための工夫が必要



共通のアセスメントシートの作成・活用を行い、それを基に行政機関等へ情報提供できる体制づくりを進める必要がある

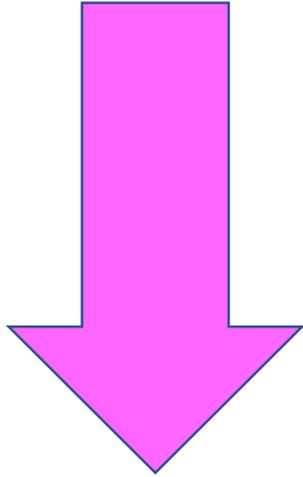
「精神症状の評価が難しい」「再度の自殺リスクの評価が難しい」等の回答が多い



医療機関職員がリスク評価をしやすような工夫が必要

考察 2

アセスメントシートについて、
関係機関と今年度中に検討を行う



目標：次年度からの活用

体制構築を行っていくため
に、実態調査を継続して行う



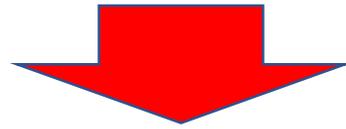
どこの救急告示病院にどのくらい
の未遂者が搬送されているかを経
年的に把握する



自殺未遂者対応の実績のある病院を選定
し、行政への情報提供について協力を依
頼していく

考察 3

研修会時のグループワークでの意見から・・・



未遂者支援の必要性について、動機付けや各立場で出来ることを考えるきっかけの一つになった

考察 4

救急告示病院から精神科医療機関・行政へ繋ぐ体制について

- ・ 救急搬送で自殺未遂者に関わる機会のある消防についても参加を呼びかける。
- ・ 研修会や検討会（グループワーク）の場を積み重ね、具体的に作り上げていく。